

同窓会だより

'83.10
第3号

秋田沖の地震で一言

佐々木 卓 郎

盛夏の候、会員の皆様には増々御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて皆様ご存じのとおり、5月26日の日本海における最大級の地震、「昭和58年日本海中部地震」は、秋田市以北の海岸部に大きな被害をもたらした。この被災原因を見ると、地変動及びそれに伴う砂地盤の液状化によるものと、津波によるものの二つに大別される。前者による被害としては、堤防（八郎潟）、道路、港湾施設、建築物等であり、後者による被害としては人命、港湾施設（漁港も含む）、海岸施設、農作物等であった。これらの被害について、我が秋大土木工学科でいち早く調査をし、「昭和58年度日本海中部地震、被害調査速報」をまとめられ出版された。このことは“地元秋大土木あり”をあらためて知らしめた。我々同窓会員としても大いに励みとなったし、さらに今後の突っ込んだ解析、研究に期待したい。また被害原因、復旧工法についてはまだ検討中のものが多数あり、同窓会員の中にも関りのある方が多数おるとお思いますので、このような時ほど、善段

にも増してお互い大いに情報、知識を交換しあいたいものである。まさに同窓会員のつながり、力の強さを発揮する時であると感じるしだいである。

話は変わるが、今年4月、稼農知徳先生と1期生の宇佐美義明氏が相次いで御逝去されたことは、まことに残念なことであり悲しい事である。稼農先生にあらましましては、昭和49年4月に秋田大学に着任されて以来、土木工学科の発展に、また学生の指導、橋梁分野の研究にと身を賭して努力されました。また宇佐美氏にあらましましては、同窓会の結成や発展に、また仕事にと精力的に働かれ、我々同窓生の一番の兄貴分として我々をリードして下さいました。ここに皆様とともに謹んでお二人の御冥福をお祈り申し上げ、御遺族の皆様には哀悼の意を表します。

最後に皆様方のより一層の御活躍と御多幸をお祈り申し上げます。

（2期 秋田県土木部港湾課勤務）

お 知 ら せ

下記の要領で同窓会総会を開催いたしますので、是非御出席下さいますようお願いいたします。

日 時 昭和58年11月5日(土) 5:30PM～

場 所 秋田市農協会館

(秋田市千秋矢留町2の40 TEL 0188(32)7676)

会 費 ￥8,000円 (当日会場にてお支払い下さい。)

※なお出席の有無は同封のはがきに40円切手をはり、10月20日までお知らせ下さい。

※昭和58年度分の会費2千円をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

理事会だより

昭和58年3月12日、本年第2回理事会が開かれ昭和58年3月11日までの収支決算が次のように承認された。

収入	基金	318,000円
	土木工学科父兄会からの補助	20,000
	利子	11,181
	前年度からの繰り越し金	356,268
	計	705,449
支出	慶弔費（故中官氏へ）	31,370円
	同窓会だより2号費用	90,960
	第4回交流会費用	49,300
	理事会足代	31,600
	通信費	7,560
	雑費	21,030
	計	231,820
	残金	473,629

新年度の事業計画が次のように決定された。
①第3回同窓会総会を11月5日(日)に行う。②同窓会だより第3号を10月初旬に発刊する。③第5回交流会を例年通り行う。また、土木工学科20周年に向けて基金を貯蓄すること、同窓会支部活動への補助をすることなどを検討してはどうか等の意見が出された。

4月30日(日) 臨時理事会

故稼農知徳先生の遺児教育資金会・土木工学科教職員発起人代表から協力依頼があった。同窓会はこの主旨に賛同し協力することに決定した。

6月18日(日)、第3回理事会

①第3号同窓会だよりを10月初旬に発刊し、内容として会員相互の情報交換ができる記事を載せることにした。会員から原稿を集めることなどが話し合われた。②同窓会総会の準備委員として折田、菅業各理事があたることになった。③基金の使用方法として20周年に向けて定期預金をすることにした。④会員死亡による各種募

金は同窓会では行わないこととし、依頼された場合に土木工学科同窓会の名称を貸すことになった。

第4回交流会

昭和58年2月26日(日)午後1:30より恒例の土木工学科同窓会の第4回交流会が大学会館2階会議室で4年生約30名が出席して盛大に開催された。この会もすっかり定着した感がある。

佐藤(弘)氏(7期生・大民施設工業)、鎌田氏(13期生・本荘市役所)の貴重な体験談があった。

来年も同時期に予定されております。先輩各位の出席をお願いします。



現場からのたより

今回から全国、いや世界各地で御活躍中の会員を紹介するという目的で「現場からのたより」を特集することになりました。かた苦しい特集ではありませんので、気軽に仕事の事、現場の様子、会社のPR、住んでいる所のこと、近況報告、何でもかまいません。どしどし投稿下さいますよう、お願いいたします。

今回はダム建設に青春のエネルギーをもやす近藤さん、秋田県にとって悲願とも言うべき高速道路に夢をかける佐藤さんが、御多忙の中投稿下さいました。心より御礼申し上げます。

ダムにかける青春

近藤 哲英

私が新潟市に本社のある福田組に入ったのが55年の春ですから、入社して4年目になります。社員約1,000人、資本金20億の会社で、新潟県内では最大の会社と言えます。北光を見ますと私の卒業後、同じ新潟市に本社のある本間組に毎年1人づつ3人も入っているようですが、我社には誰も来ていません。新潟出身の哲さん、どうかそなたに福田組を嫌わずに、魅力的ない会社ですので入って来て下さい。

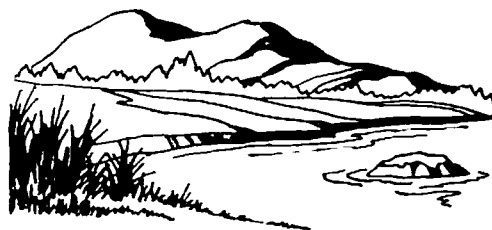
この3年半の往事といたしますと、最初の2年間はトンネルでした。新入社員研修の時、人事担当の次長が私に聞くのです。「君は鉱山学部出身だね」「はい」「じゃあトンネルの現場へ行ってもらおう」トンネルの現場の次は1年半ダムの仕事をしています。大きな仕事をしたかったのと、ダムの仕事こそ男の仕事、一度やってみたくて会社をお願いしたのです。現場は新潟3区越山会で有名な大広瀬村で、堤高93.5m、堤体積40万m³の重力式コンクリートダム、破間川ダムといい、3社JVで建設しています。企業体の職員が約30人、下請業社が8社約200人という多さで、それだけで1つの部落が出来る程の人数です。その中で私は品質管理を担当しており、試験室に入って原石、コンクリートの品質管理をしています。61年竣工を

目ざして毎日約1,000m³のコンクリートを打設し、この6月20万m³打設記念行事を行いました。日々姿をかえ高くなるダムを見ていると、まじがやろそがというファイトが湧いて来ます。

入社してまだ4年、もっと勉強しなければならない事が沢山あります。土木工学通論の中に書いてありますが、「土木は総合的学問であり、極端な専門分業に反対し土木技術者は工学全般についての動向と基礎知識を会得しなければならない」。この言葉をいつも思い出しながら日々自己啓発に努めたいと思っています。

(10期) 株式会社福田組勤務)

新潟県前崎市松波1丁目21-19



東北横断自動車道秋田線にかける

佐藤 純

前略、日頃の御無沙汰を紙上を借りましておわびいたします。さて私は今年の2月に秋田市に転勤を命ぜられ、日本道路公団秋田工事事務所技術課に勤務しております。公団入社以来、静岡、東京、山梨と徐々に北へ向っておりましたが、予想外に大きく飛び、第二の故郷、秋田へ帰って来た次第です。温暖の地でなまった体には、2月の寒さが身にこたえ、「ホるのではなかった!!」という気持ちもありましたが、今では勝手知ったる土地、人柄ということで快適に過ごしております。

ここで私が携わっている東北横断自動車道、秋田線の計画概要について簡単にお知らせしたいと思います。この秋田線は秋田市と北上市を結ぶ延長約110kmの高速道路ですが、そのうち秋田～横手間57kmの施工命令を昭和53年11月に建設大臣より受け、昭和57年3月路線発表、昭和57年8月、中心杭を打設し、現在は土質調査及び設計協議のための道路設計を行なっている状況です。完成時期は社会及び経済情勢により

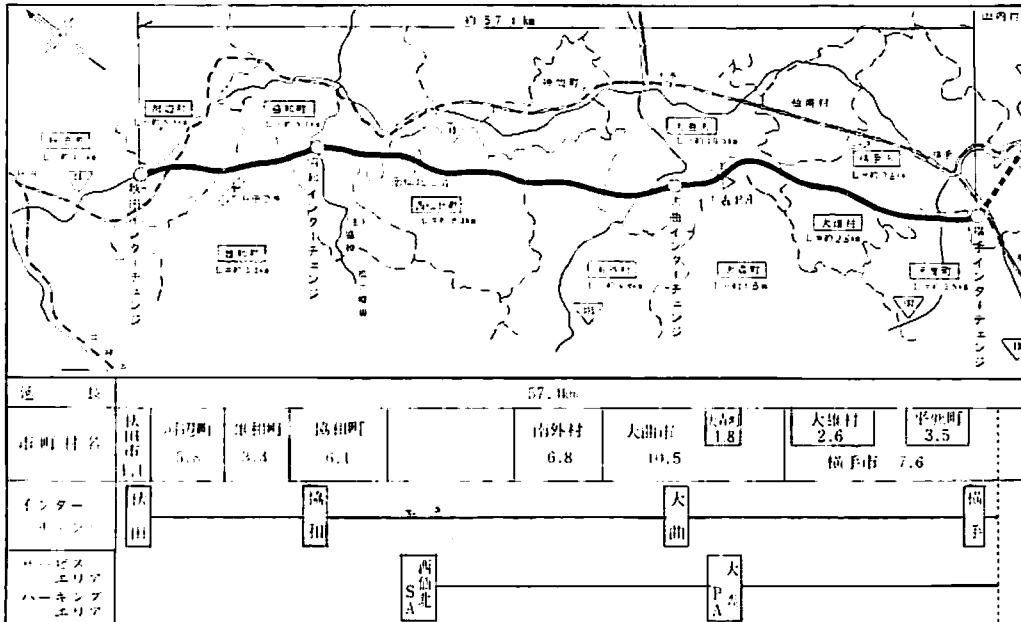
不確定ですが、昭和60年代の後半には秋田～横手間を走れるようになると思われます。今、私が強く感じているのは、現在の仕事が工事そのものではなく、計画調整が主体となっているため、他官庁、団体、地元等の人との折衝が重要な部分を占めるのですが、秋田でのそういう仕事は同級生、諸先輩、クラブの仲間がいるため、非常に助かるということです。知らない土地で一人から人間関係を作ることは非常に難しいということは今までの経験でわかっていましたので、折衝する相手と共通の知人を偶然みつけた時のうれしさは何ともいえないものです。土木技術者としてもまだまだ未熟な私ですが、しばらくは秋田にいたいと思いますので、よろしく御指導下さい。なお現在秋田市で一番高いビルにおりますので近くに来られましたらお寄り下さい。

混文にて失礼します。

(5期 日本道路公団勤務)

秋田市高陽青柳町10-20阿部マンション310

東北横断自動車道秋田線



訃 報

1期生の山下善也さんが昭和56年3月18日に心臓病で、また同じ1期生の宇佐美義明さん、(秋田市役所勤務)が昭和58年4月29日、交通事故のため他界されました。謹んで哀悼の意を表わし、ご冥福をお祈り申し上げます。

なお御遺族の方の住所は下記のとおりです。

(山下さん)

鹿児島県指宿郡山川町福元6176の15 山下 ナツエ 様

(宇佐美さん)

秋田市四ツ小屋字中川原80-478 宇佐美 やよえ 様

山下善也君をしのぶ

小林 富美雄

1期生の山下善也君が亡くなられた!!という風の便りの訃報に接して久しいが、その後御家族の消息がなかなかつかめず、皆様にお知らせすることが出来ずにおりましたが、ようやく連絡がとれまして、それによると、2年前の昭和56年3月18日、突然の心臓病のため亡くなられたとのことでした。あの小柄な、でもラグビーや柔道で鍛えた頑健な彼がどうして!!と無念やるかたない。……残念でならない。

大学4年の頃であつたらうか。故郷の鹿児島の名産である“焼酎”を研究室に土産にもってこられ、皆をよろこばせたりしたものです。そんな中にも、何か小さな事には満足できず、いずれは安井息軒の“いまは鳴かぬがほととぎす、いつかは雲井の外に名のらん”ということを内に秘めて、そして我々が期待できる人物であつたのに。豪放磊落なあのお笑い声で“お前なにをやってるか”と私達に揶揄をとばしてくれる、そんな彼であつたのに、今は舂らぬ人となつては、ただ御冥福を祈るのみである。なお、彼の奥様は実家にもどられて再就職され、一粒種のお嬢さんは今存小学校へ入り、今は穏やかな日々をおくられている様子でした。

なお彼の消息を知るにあたり、2期生で同郷の下舞俊三君に大変お世話になりました。この紙面をかりましてお礼申し上げます。

(1期生 横手工業高校勤務)

宇佐美義明君、急逝する

高田屋 憲 次

去る4月29日、宇佐美義明君が35才の若さで交通事故に遭い急逝されました。義明君の悲報が入った時私は、あれほど慎重派だった彼がなぜこのような事にと、我が耳を疑いましたが、これも彼の持った運命だったのかもしれない。義明君は学生時代から学問、武道を愛し、常に物事を冷静に見つめ慎重に対処し、だれからも好かれる青年でした。卒業後は秋大土木科として初めて秋田市役所に入れ、都市計画課、道路建設課と立派に職務を果され、後輩達の良き相談役であり、理解ある先輩として我々の方へも伝わって来ていました。そして同窓会においては理事として積極的に会を盛り上げ貢献されました。本当に御苦労様でした。残された奥様や子供さん、お母さんの事を考えると義明君は無念の気持ちで一一杯でしょうが、御家族の皆様が1日も早く立直られ、自分の足で歩いて行かれることが義明君への最大の供養だと思います。そのために、我々同窓生でできる事がありましたなら協力し合い、彼の冥福を祈ろうではありませんか。

(1期 練ミナト工機勤務)

大 学 寸 景



編 集 後 記

早いものでS.58年中ばを過ぎました。今年の前半は大きな出来事、「日本海中部地震」があり、同窓会員各位におかれましても御多忙だった事と思います。また御家族、親族、知人等で被害にあわれた会員の方もおられることと思います。紙上をかりまして心より御見舞い申し上げます。いよいよ災害復旧のGOサインも出、皆様方にとってもますます御多忙のことと思いますが、体に気をつけて頑張っていただきたいと思っています。

さて、先日の稼農先生遺児存英金に関しましては、多くの会員の方々から御協力を得たこと、心より御礼申し上げます。同窓生 284 名、職員 18 名、存英金 1,704,000 円とのことでありました。

11月には同窓会総会を予定しておりますので多数の参加をお願いいたします。

(柴田 記)

発行所 〒010 秋田市手形学園町1の1
秋田大学鉱山学部土木工学科同窓会
TEL. 0188 (33) 5261
振 替 秋田 4736

発行人 小 林 富美雄

編集委員 秋田県庁内同窓生一同

印刷所 秋田県横手市清川町10-4
鶴田印刷株式会社
TEL 01823 (2) 2124

